

自著を語る

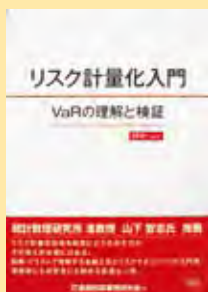


リスク計量化入門 —VaRの理解と検証—

FFR+

代表 **碓井 茂樹**
(日本銀行金融高度化センター)

FFR+ は「金融工学とリスクマネジメント高度化」研究会
(Forum of Financial technology and Risk management)の略称です。



第1章 インTRODククション

第2章 統計・確率の基礎

第3章 VaRの計測手法

1. VaRの定義
2. 市場VaRの計測
3. 信用VaRの計測
4. オペリスクVaR

第4章 VaRの検証と補完

1. バックテストによるVaRの検証
2. VaRの限界とストレステスト

第5章 内部監査の視点

1. リスクマネジメントと内部監査
2. 内部監査の高度化
3. リスク計測手法と検証のポイント

金融危機が起きる以前からVaRの限界は指摘されていました。VaRの限界を踏まえ、ストレステストを行う必要性があることはリスクマネジメントの常識でした。しかし、金融危機によって多額の損失を被った企業・金融機関では、VaRの理解と検証が不十分であったり、ストレステストの実務も不十分であったと言われていました。このようなときこそ、基本に立ち返って、リスクマネジメントのあり方を冷静に考え直すことが必要です。

最近、経営者から企画部門、リスク管理部門、内部監査部門の管理者、担当者にいたるまで、リスク計量化技法をしっかりと理解したうえで、経営判断やそれぞれの業務に役立てたいというニーズが非常に高まっているように感じています。

本書は、2008年9月、(社)日本内部監査協会が主催した研修会の講義録をもとにして作成されました。当時、主催者に受講者数の予想を訊かれて、50名程度と回答したのを記憶しています。しかし、実際は1週間で300名を超える申し込みがあり、キャンセル待ちとなりました。それ以来、この研修会は定期開催され、現在までに1,000名を超える方たちが受講しています。

その後、各種協会・団体などからも講義の依頼が寄せられるようになりました。また、日本銀行の金融高度化セミナーでも、2時間のダイジェスト版を作成して、全国主要都市で講義を行いました。ダイジェスト版での講義も含めると、3,000人を超える方たちにお話をさせていただいたのではないかと思います。経営者向け、リスク管理部門向け、内部監査部門向けと様々な方に講義させていただき、ニーズの広がりを実感しました。

リスクマネジメントを専門家に任せる時代は終わりました。リスクマネジメントは、経営者をはじめ、関係各部門がコミュニケーションをとりながら行うものです。高度なリスクマネジメント技法を採用している企業・金融機関も増えていますが、経営判断に活用するには、関係者全員がその前提や限界をしっかりと理解することが必要になります。

本書は、金融工学とリスクマネジメントの入門書です。読者層の広がりを踏まえ、高度なリスク管理技法を図解・イラストを使って、平易な言葉で解説するように心がけました。また、本書を手にとったとき、初心者でも心理的な抵抗感を抱かず、早速、読んでみよう、と感じてもらえるように、字体を大きくし、トピックが「見開き」で完結するよう配慮しました。

本書で強調したかったことは、①VaR計測モデルをブラックボックス化させないこと、②リスクプロファイルに適合したVaR計測モデルを選択すること、③VaRを活用するにはバックテストによる検証が必要となること、④VaRの限界がどこにあるのかを理解すること、そして、⑤経営陣と関係各部門がコミュニケーションをとってストレステストを行い、経営の頑健性を高めるために何をすべきかを様々な観点から考えることです。

本書は、FFR+という研究会メンバーの有志が協力して執筆しました。銀行、保険会社、コンサルティング会社、金融庁、日本銀行とそれぞれ異なるバックグラウンドを持つメンバーからなりますが、執筆者全員が公認内部監査人(CIA)の資格を持っているだけに、経営全体をみる「マクロ」の視点と現場のプロセスをみる「ミクロ」の視点から、バランスをとって構成・内容をブラッシュアップすることができたと思います。そして、記載内容の正確性を期すため、統計数理研究所の山下智志准教授に原稿を入念にチェックしていただきました。

今後、リスクマネジメントと内部監査の高度化を支える人材の育成が益々重要になります。FFR+では、書籍の出版だけでなく、有用なセミナーの開催情報やコンテンツの掲載など情報発信機能を高めて、自己啓発の支援をしたいと考えています。私共の活動は、メンバー個人の意思と責任にもとづく、ボランティア・ベースのものであります。ご関心を持っていただいた方、あるいは、ご賛同、ご協力いただける方は、是非、ホームページ<http://www.ffr-plus.jp/>からアクセスしてみてください。(社団法人金融財政事情研究会刊)